

□には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名

グループホーム はなみずき

日付

平成19年1月18日
特定非営利活動法人
ライフサポート

評価機関名

評価調査員

在宅介護経験15年
評価調査員 ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 開設して7年目、まだグループホームの制度がきちんと出来る前から、大きな法人の中の認知症ケアの一つの理想として運営されてきた。それだけに「安心」「うるおい」「こちよさ」は実感として生活の中で体現できている。「ここは天国みたいな所よ。天国と言っても死んだ人の行く所でなく、良い所という意味よ。外は寒くてもここは暖か、食べ物の心配しなくても時間になれば美味しい食事がいただける。病気になっても、どこかで転んでもこの人がちゃんと気を付けていてくれる。心配しなくてもいい。この人は皆優しい。私はやりたいようにしてたらいい」。独り暮らしだった利用者が教えてくれた。彼女の言葉が全てを物語っている。ホームは立派な第二の家になっている。		

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居居の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 昨日の朝入所したばかりの利用者がいた。彼女はまだ心の受け入れが出来ていないので、落ち着かない。皆の居る食堂のテーブルに行く事ができない。職員が誘って、テーブル横の畳スペースで一緒に洗濯物を畳む。仕事があって救われた感じだ。「コーヒーいかがですか?」「いえ、皆さんのお邪魔になると申し訳ないから」中々皆の中に入れない。職員は気長に本人の好きにさせながら、しっかり見守る。その内に、広すぎない共有スペースで、他の利用者の表情や声がよく聞こえ安心したのだろうか、少しずつ食卓の椅子に座るようになった。夕方には椅子から立ち上がり「どうぞよろしく」と挨拶を始めた。家庭的な少ない人数の中で、ゆったりと自分のしたい気持ちでいられる。職員は、うまくその人の気持ちを引き出すよう見守る。こうして新しい家族がまた一人増えた。
------	---

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人で行えることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人で行えることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

外部評価の結果

全体を通して(特に良いと思われる点など)

食堂のテーブルに、利用者が何となく集い、思い思いに寛いでいる。1ユニット6人のこじんまりとしたホームだ。採算面ではかなり厳しいと思うが、利用者にとっては、見守りも行き届き嬉しい。テーブルを囲んで、お互いがよく見えるし、言葉も交わせる。ごく普通の家庭と変わらぬ程良い空間だ。職員が目立たず、利用者の出来ぬ部分をさり気なく出来ているのも好ましい。ずっと歌い続けている利用者がいた。あまり聞かぬ歌だと思っていたら、いつの間にか何かの曲になっていたりする。「たくさん歌を知ってますね」と声をかけると「自分で作った曲だ」と言う。妻が亡くなってから歌い出すようになり、家事をするお嫁さんにくっ付いて3時間も歌い続けたそうだ。職員は「今日も元気だな」と受け止め、他の利用者は時には一緒に歌ったりしている。認知症の人のする事には全て理由がある。彼は歌い続ける事で何かを訴えている(?)。ホームに来てからは何時間も歌い続ける事はなくなったそうだ。心の中が少しずつ満たされてきているのかも知れない。原因を探して、言葉にできぬ気持ちを分かちあえる作業が始まっている。このホームなら大丈夫、まだ入所して間のない彼が、今後どう変わっていくかが楽しみだ。主役は利用者！のんびり、ゆったり、家庭的な触れ合いの中で日常が過ごせる。グループホームの理念がここにある。

特に改善の余地があると思われる点

次のような提案をした
歌の好きな利用者が多い。歌を上手に生活の中に取り入れる工夫をしてはどうだろう。それぞれがバラバラに歌うのでなく、歌の時間を作れば、自分の好きな歌を皆の前で歌う事で、満足感を得る事もできる。活躍の場は多い方が良い。
個別の個人日誌がある。その人の言った事やした事が、毎日丁寧に書きとめられている。「○月×日、余り変わった事もなし。つまらない。面白くない。帰ろかしらん」本人の書いたメモと一緒にファイルしている。家族には見せていないと聞いたが、これだけの物を埋めれさせるのは惜しい。多分家族は、この日誌の存在すら知らないだろう。これを見ればその人の日常がまざまざと目に浮かぶ。その人の生きた歴史がそこにある。忙しい業務の中で職員の労力はいかばかりかと感心した。是非この素晴らしい生活史を家族に見せてあげて欲しい。家族と本人の関係が縮まり、ホームと家族の間の情報交換のきっかけになる。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 「グループホームのマニュアル通りに、ホームに閉じこもらず外出をしなくてはならぬと拘った時期がありました。でも利用者は知らぬ場所です不安で疲れるだけ、家族が望んでいるのは安心と安全、外出は職員の自己満足でしかない気が付きました」と管理者は言う。無理をして長時間の遠出は必ずしも良い事ではない。近隣に少し出かけ楽しんでもらえば良い。慣れて、自然の流れで、車で買物に出掛ける事があれば、それも又良し。同様に能力があるからと、本人が望まないのに作業に誘うのもやめたそうだ。 赤ちゃん人形をあやし語りかけている利用者がいた。「かわいいですね、男のお子さんですか?」と聞くと「女の子なの。いい子よ」彼女の表情は優しさに満ち溢れ聖母そのもの、見てると私の方が癒される幸せ気分。人形はセラピーの一つの手段として、ホームが彼女に提供したそうだ。一人ひとりの特性の把握がよく出来ている。出来る事、出来ない事、出来てもしたくない事、人それぞれ皆違う。その気になってやりたい時にやりたい様にゆっくり、のんびり楽しんでくれたら良い。自然体で無理のない取り組みができています。
------	--

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供		○
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 健康管理に一番気を付けていて、素人判断しないよう早期発見を心掛けてしていると聞いた。ホームは大きな社会福祉法人の中の一つの組織で、周辺一帯に関連施設が隣接している。地域全体が一つの村のようだ。歩いて行ける距離に病院もあり、すぐに診察や相談ができる体制が整っている。家族にとっても安心材料だろう。「地域の利用者が殆んどなので面会も多く、職員と家族のコミュニケーションは取れていた。今後は、家族同士の横の繋がりを深めるよう働きかけたい。グループホームの理想の形に近づきたい」と管理者は言う。「医療と介護の連携を取り、母体の強みも活かしつつ、これからのグループホームの指標となってくれる事を期待する。
------	---